

被災者支援活動ニュース

“り災証明早く、“根雪が不安、“あきらめている、 党ボランティアに切実な声が多数よせられる

12月2日、四回目となる党ボランティアによる「訪問・聴きとり」活動がおこなわれました。この日、米子市、境港市、鳥取市などから10人が参加し、午前と午後5組が行動し39軒と対話しました。この日も被災者の切実な声や要望が多数よせられました。

- 「余震でも瓦が少し落ちた。根雪になると考えると不安。屋根のシートももつかと」
- 「屋根瓦がおちそう。見回っている。」
- 「スピードアップしてほしい。ブルーシートが風ではずれている。罹災証明が来ないためなにもできない。無駄な金をつかわず被災者に使ってほしい。」
- 「屋根頼んでも3月になるといわれている。雪が降ったらと思うと…。シートが破れた。ロープをはっているため、窓が閉めきれず。すきま風が入ってくる。」



- 「石垣の石が飛び出ている。家の基礎が下がり、きれつが入る。となりの家がくずれそう。持ち主がわからない。石垣をなおすには一度全部くずして積み直し。2軒分で1000万はかかる。石垣を積み直すと、家が倒れる可能性も。」
- 「屋根を直してもらおうよう頼んでいる。見積もりが出て、80万円くらい。襖、障子が動かさない。」
- 「石垣を自分で補修。業者が直すと一度はがさないといけない。」

いといけない。」

- 「お墓にヒビが入っている。見てもらったがなんにも連絡がない。役場の対応がたらいまわし。」
- 「水道が破裂して3日間風呂に入れなかった。瓦なおしの順番まち。早くなおしたい。」
- 「トイレがタイルはがれ、便器もこわれた。食器もみんなわれた。危険宅地とはってある。待っているが、待ってられない。いつくるのか。」
- 「隅々がみんなこわれている。二次申請するか迷っている。」
- 「内側はもう直さないつもり。家も古いしあきらめている。給湯器がこわれたが自分で出せといわれた。独居の人にはつらかった。」

